

◆◆◆はだ色◆◆◆

■ 恥ずかしながら知りませんでした。
「はだ色」がなくなっているのですね。
正確に言うと、色そのものはありますが
「はだ色」という言葉を使わなくなっている。
最近になって知りました。



■ 考えてみると確かにそうです。
日本人，黄色人種である私たちにとって
「あの色」＝はだ色なのでしょう。
が，外国の方の「はだ色」はさまざまです。
いや，日本人にも肌の色が「あの色」
でない人はたくさんいます。
私だって日焼けしている今，「あの色」とは
ずいぶん違う色になっています。
そんなわけで，大手文房具メーカーでは
2000年ごろから「はだ色」という名前を
「うすだいたい色」「ペールオレンジ」
などという名前にかえているようです。



■ 改めて「あの色」の名前を調べてみました。
江戸時代以前は獣の肉の色という意味の「宍色（ししいろ）」と呼ばれていたそうです。
仏教が入り，肉食が禁じられるようになって当時の人は「宍色」に変わる名前を
考え出しました。それが「肌色」というわけです。
こんなふうに見てくると，色そのものはもちろん，その色に付けられた「名前」には
責任はないなあ，と思います。
ただ，「あの色」を今まで「はだ色」と呼び，「はだ色」という名前に対して
何の違和感，問題意識も持っていなかった私は，もしかしたら無意識，無自覚に
差別していたことになる。
そう考えると，心が苦しく寒くなります。